

固定資産評価
審査委員会委員
再任に同意

固定資産評価審査委員会委員の任期満了に伴い、委員に貫洞氏と齋藤氏を再任することを全員賛成で同意しました。



貫洞 征功氏



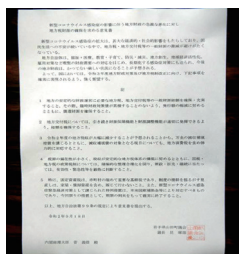
齋藤 茂氏

発議案
意見書を提出

9月18日に「新型コロナウイルス感染症の影響に伴う地方財政の急激な悪化に対し地方税財源の確保を求める意見書」が提出され、全員賛成で可決しました。

意見書の内容は、新型コロナウイルス感染症の影響による地方税収の減少に伴い、地方自治体が行政サービスを低下させないよう地方交付税などの確保や減収補てん措置を図るよう求めるものです。

可決された意見書は、内閣総理大臣や衆議院議長など10名に提出しました。



提出した意見書

皆さまからの
請願

■「気候非常事態宣言」等を求める請願
(6月定例会からの継続審査)

▽請願の要旨

①町が「気候非常事態」を宣言すること②気候変動状況の周知徹底③家庭や企業の4Rの徹底④町内で利用するエネルギーを2050年までに再生可能エネルギーに完全移行すること⑤町外の自治体・団体等とも気候非常事態を認識し、連携すること

▽提出者

佐々木 泰子 氏

▽紹介議員

木村 洋子 議員
黒沢 一成 議員

▽付託委員会

総務教育常任委員会

▽委員会での結果

審議の結果「不採択とすべきもの」とし本会議に報告

▽賛成討論

木村洋子議員
地球温暖化を止めるためには、二酸化炭素の排出量を減らす必要がある。気候非常事態宣言を広げていくことは、政府や自治体に具体的な対応を求めていくための大切な足掛かりとなる。豊かな山田の海とこれからの若い世代の未来を守るため、この請願を採択すべきである。

▽反対討論

横田龍寿議員

地球温暖化の原因は、温室効果ガスによるものが太陽の活動によるものか結論が出ていないはずである。またイギリスの気象学会では2023年には氷河期が訪れるという説もある。これらことから反対する。

▽本会議での採決の結果

不採択

(賛成2名、反対11名)

第3回臨時会
(7月14日)

議案4件を審議し、全て原案のとおり可決しました。

織笠漁港機能保全
(電気防食工) 工事の

請負契約締結を可決

漁港機能保全計画に基づき、老朽化した織笠漁港防波堤の鋼管矢板の補修を行うものです。主に、腐食により穴が開いた箇所への鋼材の巻き付けと鋼管矢板腐食防止のため防食電流を流すためのアルミニウム合金陽極を取り付けるものです。

■質疑応答

問 どの程度腐食しているのか。また、合金陽極の耐用年数は。

野口水産商工課長 平成30年度に行った調査では穴が開いた鋼管が多数見つかつた。該当する区域は平成30年9月に立入禁

止にしている。アルミニウム合金の耐用年数は30年である。防食電流により鋼管自体の腐食を防止できる。アルミニウム合金を交換するかどうかは定期的な点検により判断していく。

第4回臨時会
(8月5日)

7月31日付けで退職した甲斐谷義昭前副町長の後任として甲斐谷芳一氏を副町長に選任することを賛成多数で同意しました。



甲斐谷 芳一副町長